

風光明媚で豊かな人情“国見”

— 地域特性に合わせた独自の活動 —

国見公民館

1 国見地区の概要

名勝：ブルーシー鮎川



国見地区は福井市の西端に位置し、東は国見岳、西は国道305号を挟んで日本海に面している。海の穏やかな時節に

は漁火や夕日が絶景で、風光明媚な越前加賀国定公園に沿った自然に恵まれた海岸地帯である。

福井市の中心部からは約30km、自家用車で約50分の地にある。東西の距離は5.4km、南北は5.1kmあり、地区の自然地形により海岸に沿って集落が伸びており、交通機関も海岸沿いに発達している。

昭和34年以前に丹生郡国見村であった国見町、鮎川町、白浜町、大丹生町、小丹生町が、福井市に編入し、この5町で国見地区自治会連合会を構成している。

令和5年1月1日現在の世帯数は393戸、人口は910名（男422名・女488名）である。

2 公民館の活動

(1)「源平ゆかりの地三地区」交流

西暦1183年（約830年前）に石川と富山の県境にある俱利伽羅峠での源平合戦にゆかりの①長野県木曾郡木曾町日義地区：「源氏『木曾義仲』が育った地」②石川県河北郡津幡町刈安地区：「『源平合戦』を繰り広げた地」③福井市国見地区「平家が落ち延びた地」として、約20年前から交流会を行っている。現在は三地区持ち回りで隔年開催となっていて、令和4年度は国見地区で開催した。

俱利伽羅峠で源氏に敗れた平家は、加賀と越前の海



国見地区での開催(令和4年6月18日)

岸に沿って敗走を続けた。古来より国見地区は戦乱の余波もなく平和な集落であったため、戦いに敗れた落人を受け入れ定住させた。この史実は、地域の人々の鷹揚(おうよう)な人間性を物語っている。

古くには敵対する源氏と平家であったが、今では、悠久の縁あればこそその事業となっている。

(2)少年教育：ふるさとの魅力学習

平成5年度から、自身が生まれ育つ国見地区の魅力を再確認し、ふるさとに誇りを持ってもらえるよう、小中学生のために国見地区内の魅力を学ぶ教育事業を行っている。小学生については3年生と4年生が参加する「ふるさと宝探し」、中学生については1年生と2年生が参加する「ふるさと探訪」と称し、「化石の宝庫国見層」「平家重臣の末裔森本家」「国見神社の御神体(重要文化財)」

「加茂廼神社の舟絵馬」「弁慶の洗濯岩」等、国見地区内の歴史旧跡や景勝地を訪ね、その由来等を学習している。



(3)家庭教育事業：ワイワイ広場

夏休みや冬休みの期間中、子ども達の交流や学習のため「夏休みワイワイ広場」「冬休みワイワイ広場」を開催している。令和4年度は夏休みは4回、冬休み1回の開催であった。地元の講師を招いて「化石探し」「版画教室」

「海洋ごみ学習」「花の種まき」「押し花教室」等を行った。



海洋ごみ学習

(4)健康長寿事業：すこやか学級(出前講座)

地区内の高齢者を対象に健康長寿事業として毎年「すこやか学級」を開講している。国見地区内には5つの自治会(町内)があり、国見地区社会福祉協議会がすべての町内にてほぼ毎週シルバー喫茶を開催

していること
から、同協議
会に協力をお
願いし、この
シルバー喫茶



を活用した出前講座を行っている。令和5年度は、防災(6月)、交通安全(7月)、健康(8月)、防犯(10月)を計画し、各月5か所(5町内)へ講師を派遣し出前講座を行う予定である。出前講座以外にも、6月の開講式時と3月の閉講式時にも各種の講座を開催している。

(5) 防災教育：地区研修会「グループ避難」

国見地区自主防災組織連絡協議会の事業として、毎年地区防災研修会を開催している。令和4年度は11月13日(日)に国見小学校体育館にて、約50名の参加者が地元の講師(長谷川理氏)から「国見型グループ避難方式」を学んだ。日頃からの「向こう三軒両隣」の近所付き合いという人間関係の国見地区ならではの避難方式の

再確認を行
った。令和
5年度は6
月25日
(日)に福井
市の総合防



災訓練の後、地区事業として「避難所開設時初動対応研修会」を開催し、避難所用備蓄品の確認や簡易ベッドとパーテーションの組み立て実習を行った。

(6) 子育て支援「青少年環境一斉点検」

国見地区青少年育成会や自治会連合会が中心となり、毎年7月上旬の日曜日に「青少年環境一斉点検(危険箇所点検)」を実施している。各自治会代表者、小中学校、PTA、保育園、保護者会、実年会、防犯隊、駐在所等の各団体の代表者約40名で子ども達にとって危険箇所がないかを点検している。指摘箇所がある場合、取りまとめて、各行政機関へ改善要望書を提出している。

3 地区の事業

(1) 地区合同体育祭

国見小中学校と地区体育振興会が合同で毎年5月に合同体育祭を実施している。コロナ感染症の影響で3

年間開催できなかったが、令和5年度には、従来より競技数を減少させ、午前中に終了する内容で4年ぶりに開催した。久々の開催にもかかわらず、大勢の参加者で盛り上がり、コロナの反動か、地区民が交流再開を楽しんでいるように感じられた。

(2) 地区夏祭り

毎年7月の最終土曜日の夜、国見小中学校のグラウンドで地区の夏祭を開催している。地区自治会連合会が主催し同連合会の予算(令和5年度:¥200千円)を財源としている。「夕涼みコンサート」「民謡大会」「子ども達による出し物」「お楽しみ抽選会」「模擬店」等で地区民の参加を呼び掛けている。

(3) はたちのつどい

民法の改正により成人の年齢が引き下げられたことから、令和5年度からは「はたちのつどい」として3月に地区内の20歳を迎えた若者をお祝いする事業を地区自治会連合会主催で行っている。該当する若者の家族や親せきだけに限らず、地区民全体でお祝いしようという

自治会連
合会の意
向で、地
区の伝承
である

「饅頭ま
き」を実
施し、広
く地区民



く地区民の参加を呼び掛けている。

4 他地区との連携事業

(1) 福井の海を守る会

福井市の越前海岸に面する4地区(棗、鷹巣、国見、越廼地区)が、国定公園である越前海岸の環境美化に取り組むため、30数年以上前から連携し、海岸の漂着ゴミの回収や環境美化啓蒙活動を継続している。毎年地区ごとに地区民が海岸の一斉清掃活動を行い、海岸を綺麗にしている。最近では地区外のボランティア等の参加を呼び掛けての清掃活動に取り組む地区もでてきて、活動の輪が広がっている。今後も4地区が連携し、北陸新幹線開業後の観光客増加に繋がるよう、海岸の環境美化に取り組んでいく予定である。